

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2017.9) 平成28年度:51-53.

超緊急帝王切開術の入室シミュレーションとその効果

竹内 美紀, 澤田 侑希, 石倉 かおり, 阿部 明美

超緊急帝王切開術の手術室入室シミュレーションとその効果

旭川医科大学病院 周産母子センター

○竹内 美紀 澤田 侑希 石倉 かおり 阿部 明美

A病院では過去5年間に超緊急帝王切開術が7件あり、手術決定から児娩出まで35分だった。そのため、児娩出までの時間短縮への取り組みを行った。

【目的】超緊急帝王切開術（以下グレードS）のシミュレーションを繰り返し今後の課題を考察する。

【倫理的配慮】本実践報告はA病院倫理委員会の審議申請中である。

【実践内容】1) 病棟シミュレーション：産婦人科医師・小児科医師・病棟スタッフが参加して行った。2) 合同シミュレーション：麻酔科医師・手術部と合同で行った。

【結果】シミュレーション導入後のグレードSは1件で、グレードS宣言から児娩出までは6分であった。

【考察】児娩出までの時間が大幅に短縮されたのは継続したシミュレーションの効果と言える。チーム医療を推進するには緊急事態に多職種で協働して母子の救命ができるよう日頃からコミュニケーションをよくすることとされている。今回のように多職種と協力することでそれぞれの立場から問題点・改善点を明らかにすることができ、チームワークの重要性の再認識に繋がった。

超緊急帝王切開術の 入室シミュレーションとその効果

旭川医科大学病院 周産母子センター
4階東病棟 竹内美紀 澤田侑希
石倉かおり 阿部明美

はじめに

一般的に分娩緊急時に児の予後を改善するためには「方針決定から児娩出まで30分以内」と提唱されている。A病院では過去5年間に7件の超緊急帝王切開術(臍帯脱出・常位胎盤早期剥離)を経験し、方針決定から児娩出までの平均時間は35分だった。
⇒分娩に関わるすべての人が共通した認識をもち、安全にすみやかに行動できるよう産科医師が中心となり超緊急帝王切開術のプロトコルを作成。方針決定から10分以内での児の娩出を目標とし、定期的なシミュレーションを実施しているため、その取り組みと成果を報告する。

超緊急帝王切開術のプロトコル

緊急度	緊急度	麻酔方法	適応例*
高	GradeS 一刻も早く入室	全身麻酔	常位胎盤早期剥離 臍帯脱出
	GradeA 急いで入室	全身麻酔** or 区域麻酔	胎児心拍の回復しない胎児機能不全 出産を伴う前置胎盤 など
	GradeB 30分以内に入室	区域麻酔	胎児心拍の回復ある胎児機能不全 帝王切開予定の破水、陣痛 など
低	GradeC 入室まで1時間ほどの余裕あり	区域麻酔	分娩停止 など

*適応はあくまでも例です。緊急度の決定は産科医が行います。
**GradeSはGradeAとほぼ同等の緊急度ですが、入室時の胎児心拍回復あれば、急ぎの区域麻酔可能ならば変更も可能。産科医と麻酔医で決めます。

現在までの取り組み

1)病棟シミュレーション

- 平成26年12月～2か月に1回程度で実施。
- 参加者
産婦人科医師・小児科医師・病棟スタッフ
- 状況:夜勤を想定して実施。
- 実施内容:手術室裏口まで実際にベッド移動。病棟緊急処置室を手術室と仮定し、物品の準備から児娩出までの一連の流れを実施。

病棟シミュレーションの様子



さあ、シミュレーションの開始です！



手術室へ

手術室到着

手術開始です

2)実際の事例

日時:平成27年7月
時間:日勤帯と準夜帯の勤務交代時
事例:グレードS

方針決定から児娩出まで
所要時間:6分

過去5年間の平均
35分

3) 合同シミュレーション

・平成27年10月29日

・参加者

麻酔科医師・産科医師・小児科医師、
手術部スタッフ・病棟スタッフ

・状況: 夜勤を想定

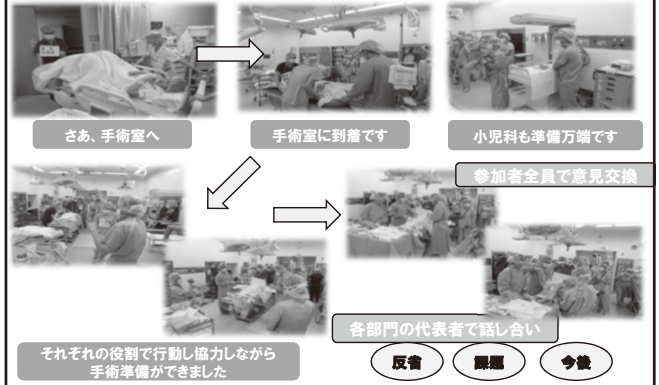
・実施内容: グレードSのシナリオで行い、手術室
へ入室し児娩出までの一連の流れを実施。

・グレードS宣言から入室まで4分、児娩出までは
5分(グレードS宣言から児娩出まで9分)。

・意見交換の内容

手術部NS: やることが多くて、手がまわらない。手伝って欲しい。
麻酔科Dr: 人手が欲しいので、誰かに手伝って欲しい。

合同シミュレーションの様子



考察

シミュレーションの効果

緊急時の行動の
イメージ化

・プロトコル導入後、初めての
グレードSの事例では児娩出まで
の時間が大幅に短縮された。

・合同シミュレーションでも児娩
出までの目標時間が達成された。

課題

・実際にこのような場面に遭遇する
ことは、あまりあることではない。

・最小限の人数でどう動くかが課題である。

・他部門と協力してシミュレーションの実施をす
ること、参加したそれぞれの立場からの問
題点・改善点が明らかとなった。

継続したシミュレーション教育が必要
チームワークの重要性の再認識

結論

・シミュレーションの継続は児娩出までの時間を短縮することにつ
ながった。

・実際の場面に遭遇する機会は少ないので、継続したシミュレ
ーション教育が必要である。

・夜間などマンパワーが不足しているときの連携や、効率よく動く
方法についての問題点や改善点が明らかになった。

・緊急時は、他職種とのチームワークが重要であると再認識した。